

田吾作の収穫感謝祭

四谷の

千枚田だより



第 64 号

謹賀新年

本年も
千枚田をよろしく
お願いします



千枚田を耕す会田吾作(代表今泉良治)は耕作放棄地の解消に取り組み地元耕作者のグループで、この七日、収穫感謝祭「餅つき大会」をふれあい広場で行った。

この日は雲一つない青空のもと、都市近郊から集まった人たちがつきたての餅やパーベキュウに舌鼓を打った。

恒例行事となった田吾作の餅つき大会に、今年も小坂井の勇寿司の親父さんが仲間と一緒に具材持参で駆けつけ、大判振る舞いに行列が途切れることがなかった。

また、自然農法に取り組む千枚田一番の老百姓 河西 忍さんもライプ仲間4グループと特別参加、眼下に見下ろす棚田に美しい音色を奏でた。

今泉代表は都市近郊から参加した人たちに山都共生の理念や食の安全安心を熱のこもった口調で諭した。また、会場では棚田米(粳・糯米)の販売も行い好評であった。

田おこし

十二月三日、連谷小学校児童九名は学校田の冬耕を行った。

当日は「田おこし」を行った後、千枚田の四阿で給食。

午後は恒例の「田んぼとび」が何回も回も行われたが、ヤッパリ、児童より先生のほうが遅かった。



野生獣肉活用研修会

十一月二十五日、(於：新城市青年の家新城・北設楽広域獣害対策協議会主催「獲って・食べて・集落を元気にする獣害研修会」が開かれ、保存会員九名が研修を受講。

講演「獣害のない元気な里づくり 滋賀県東近江農産普及課 松井主査 学んだこと

- ・捕獲檻のイノシシ捕獲に安易な置き餌は禁物。
- ・捕獲檻の作成費 一万円(自作)
- ・電柵は効果抜群。バッテリー切れに要注意。(学習能力が高い)
- ・サル鉄砲 塩ビ管を鉄砲に見立て、花火(商品名 月光旅行)をサルに向けて放つ。効果あり。(試作品あり)

イノシシ料理教室・試食会
「山猫軒」伊藤オーナーシェフ
試食レシピの一覧
味噌はん、すじ煮込み、あぶら蕎麦、角煮、添え野菜
特有な匂いもなく、評価が良かった。

体験イベント

愛知・名古屋で2010年にCOP10が開催されるこれを機に、東三河自然環境ネットワーク主催で、東三河地域全体の生物多様性を保全する活動を促進し、その重要性を啓発する体験イベントが行われている。

テーマは東三河自然探索入門と

して第一回：弓張山系・豊川編(十月五日実施済み)、第二回：奥三河編がこの七日、体験イベントに参加した約五十人が生物多様性に満ちた棚田の自然、文化など小山舜二(鳳来寺山自然科学博物館学術委員)から学んだ。

第三回：三河湾・渥美半島編(二月十五日)。公開シンポジウム「生物多様性から見た東三河の森・川・海」が三月七日に開催予定。

COP10 愛知・名古屋招致活動のコミーシャル冊子に千枚田全景(舜二撮影)が掲載された。

東京棚田フェスティバルに参加して
棚田ネットワーク主催の東京棚田フェスティバルが十一月二十二日、東京恵比寿 SPAZIO 1を会場に「椹平棚田(山形県)・大山千枚田(千葉県)・松代棚田(新潟県)・姥捨棚田(長野県)・石部棚田(静岡県)・坂折棚田



岳の棚田米 (2kg)

田(岐阜県)・蕨野棚田(佐賀県)・四谷の千枚田」の棚田地域保存会の面々が集結。棚田ネットワークの会員、一般参加者を交え、俺らが棚田の自慢や保全はもちろんのこと地域おこし、食・農業のこと、都市交流等々「棚田をつなぐ井戸端会議」が開かれた。



棚田米の特性

- ・一般消費者は棚田米といっても米は米と思っっている。(米屋さん)
- ・中山間地に位置する棚田は、昼夜の寒暖の差やハザ掛け天日干しなど自然環境にマッチした米づくりがされている。その付加価値をつける必要がある。(姥捨・四谷)
- ・販売当初はカメムシの被害で米粒

に黒いものが混じっていると苦情が多かったが、今は黒い米粒は消費がされていない健康に優しいということでは喜ばれている。(岳の棚田)

- ・棚田米の販売価格は白米で1kg五百円〜七百元。六百元程度が多い。
- ・有機・無農薬栽培米は「こだわり」をもった生産者と消費者で納得(理解)のいく価格で取引されている。
- ・一般消費者には2kg袋が喜ばれる。

ふるさと水と土指導員研修会

十一月十八日、十九日、平成二十年度ふるさと水と土基金全国研修会(三島市)に愛知県ふるさと指導員小山舜二が「ワークショップ実践コース」の研修を受けた。

《報告》地域の魅力を探し、まちづくりを活かす手法を学ぶワークショップが行われ、全国の自治体の農政担当職員やふるさと指導員など約四十人が三島市の狩野川の原風景とも言える河畔林や動植物など貴重な自然を軸にした「魅力発見ワークショップ」などに取り組んだ。翌日は「地域の魅力資源マップ」を作り、活用法などを学んだ。

行 平成二十年十二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文 責 小山舜二

S-koyama@tees.jp